

会 議 録

1 会議の名称

令和6年度第2回 茨城県央地域ウエルネス推進協議会

2 開催日時

令和7年2月20日（木） 午前10時から10時50分まで

3 開催場所

水戸市役所4階 政策会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

上地勝, 坂間伊津美, 篠田多介志, 田澤重伸, 中村友美, 多田厚史, 飛田和明, 黒澤春美, 稲川敏夫, 大曾根光江, 高林修, 大川きみ子, 高嶋はるえ, 佐藤栄子

(2) 事務局（水戸市）

小川佐栄子, 堀江博之, 高安克子, 春日剛, 福田淳子, 昆節夫, 西山拓海

(3) 関係市町村

（笠間市）青木美穂子, 浦井義朗（ひたちなか市）佐藤由季（那珂市）玉川祐美子, 飛田健
（小美玉市）太田由美江（茨城町）大信雅一, 綿引勇太（大洗町）本城正幸（城里町）木村和恵（東海村）佐藤重雄

5 会議資料の名称

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 茨城県央地域ウエルネス推進協議会設置要項
- ・ 資料1 令和6年度の社会実験 実施報告
- ・ 参考資料 「Care Show Japan 2025」チラシ抜粋
- ・ 意見書

6 発言の内容

【執行機関】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第2回茨城県央地域ウエルネス推進協議会を開催いたします。本日は、お忙しい中御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、委員18名のうち14名が出席しておりまして、____委員、____委員、____委員、____委員は、所用のため欠席との連絡を受けておりますので、御報告いたします。本日は、新しい任期となって初めての協議会になります。

ここで行政を代表しまして、水戸市保健医療部長の小川より御挨拶を申し上げます。

【部長】 皆さん、おはようございます。水戸市の保健医療部長をしております小川と申します。本日は、茨城県央地域ウエルネス推進協議会に、大変お忙しい中御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。皆様方には、日頃より県央地域の発展並びに圏域住民の健康増進に多大なる御尽力をいただいておりますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

本日は、新しい任期となって初めての協議会ということでございます。引き続きの委員の方も多くいらっしゃいますが、改めまして、皆様には、委員をお引き受けいただきましたことに心より御礼を申し上げます。

さて、当協議会でございますが、茨城県央地域連携中枢都市圏ビジョンに基づきまして、ICTを活用した健康づくり事業を推進するため、官民連携による社会実験の実施など、県央地域の発展に資する健康づくりを進めることを目的として、令和4年に設置されたものでございます。これまで、委員の皆様の御協力により、ビジョンに基づく事業が概ね順調に進められてきたものと考えております。

今後とも、健康づくりに関する様々な民間事業者との社会実験等を通し、圏域住民の健康意識を高め、健康増進に寄与できればと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、引き続き、御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【執行機関】 ありがとうございます。続きまして、委員の皆様には、自己紹介をお願いいたします。

(委員自己紹介)

【執行機関】 ありがとうございます。なお、新しい任期となる委嘱状につきましては、お手元に配布しておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、協議会の会長・副会長についてであります。お配りしておりますが、茨城県央地域ウエルネス推進協議会設置要項の第5条において、協議会には会長、副会長を置くことになっております。このことについて、御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。お願いします。

【____委員】 本協議会に関する会長、副会長に関しましては、事務局に一任させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【執行機関】 よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【事務局】 ありがとうございます。それでは、事務局一任というお声がございましたので、事務局から御提案をさせていただきます。事務局としましては、会長には、引き続き____の____に、副会長には____の____をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

【執行機関】 ありがとうございます。それでは、会長は____委員、副会長は____委員ということで、決定させていただきます。恐れ入りますが、それぞれ会長、副会長の席に御移動をお願いいたします。

それでは改めまして、____会長、____副会長から御挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくをお願いいたします。

【会長】 重要な役割を仰せつかって緊張しております。また前期に引き続きになりますけれども、皆様方の御協力をよろしくをお願いいたします。

【副会長】 ____でございます。会長を少しでも支えられるように頑張りたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

【執行機関】 ありがとうございます。

それでは、ここからの進行は____会長をお願いいたします。

【会長】 それでは、皆様よろしくをお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日の会議録署名人につきましては、____委員、____委員のお二人を指名させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。

議題(1)、令和6年度の社会実験 実施報告について、事務局から説明をお願いいたします。

【執行機関】 それでは、資料1を御覧ください。資料1、令和6年度の社会実験 実施報告ということで、事務局より御説明させていただきます。

令和6年度は、3つの社会実験を実施しましたので、それぞれの内容を御報告させていただきます。

まず、1、茨城県央#Feel Healthプロジェクト (WELL BE CHECK) の実施結果についてとなります。

(1)の実施概要ですが、LINEで50問の設問やアンケートに回答して、その方の未病状態を見える化するというもので、行動変容ステージなどを明らかにするといった内容のものでございました。

(2)の実施目的としてですが、まず一つ目に、特に働き盛り世代という、いわゆる30歳代から50歳代の方々にアプローチをするために、LINEという手軽なツールを使うとしたら、どれくらい有効であるのかといったところ、二つ目に、そもそも社会実験に参加していただく、WELL BE CHECKを利用してもらうというために、

どのような周知が効果的であるかといった検証、そして三つ目に、WELL BE CHECKの結果から分かる、行動変容ステージの分布結果から、今後の健康づくりをどのように進めるかを検討するというものがありました。

(3)の連携企業ですが、株式会社WELL BE INDUSTRYという会社でございまして、これまでも御説明させていただきました通り、令和5年度のガバメントピッチを通じて連携が決まった企業となっております。

実施期間は、令和6年9月9日から10月31日の約2か月間行いました。こちらの期間というのは、WELL BE CHECKというLINEで行う健康チェックツールというものを利用していただいた期間になります。

(5)の参加人数についてですが、WELL BE CHECKの回答者数となります。合計で、1,065人に参加いただき、内訳は、9市町村で1,051人、その他の市町村で14人という状況です。各市町村の内訳に関しましては、下の図の通りとなっております。

それでは、2ページ目になります。

こちらの参加人数を年齢別に見ますと、メインターゲットとしておりました30歳代から50歳代の、働き盛り世代が64.6%という結果になりまして、こちらのターゲットとしていた層には届いたのかなというところでございます。

次に参加経路——回答者がそれぞれ何を見て、参加されたのかといったところですが、自治体のLINEでいろんな自治体の情報を発信しており、今回のプロジェクトについても発信させていただきまして、そこから入ったというのが19%。ここが一番参加が多い想定でしたので、やや想定が外れたような形です。次の33.8%のチラシですけれども、こちらは各市町村の方から様々な企業の方々にお配りさせていただいて、その中でさらに職場内で配っていただいたものだと思います。ポスターが3.7%、その他が43.5%であります。こちらが一番大きな割合を占めていますが、その中の内訳としては、各自治体の職員向けの掲示板ですとか、あとは茨城新聞にも載せていただきまして、そういうところすとか、いくつかの媒体がありますが、おそらく自治体の職員による参加とうところが、その他の中で多かったのかなと推測されるところでございます。

3ページ目になりまして、(6)の実施結果になります。周知に関しましては、9市町村全体でどれくらいの周知を行ったかというものになります。SNSでの発信、広報紙の掲載、ポスターをお店に貼らせていただいたりとか、それ以外にも、職員にチラシを回覧していただきまして、会報に記事を書かせていただいたというところもございます。ほかにも、各市町村でそれぞれ可能な限りの周知を行いまして、庁舎内のモニターですとか、他のイベントでチラシを配布していただいたりとか、そういうところで周知に御協力いただきました。

イのトータルスコアになりますが、WELL BE CHECKという健康チェックツールで50の設問に答えて最終的に出てくる結果になります。こちらは市町村ごとでありまして、3.0が全国平均とされるところで、全体的にどの市町村も、それよりはやや悪いような結果となっております。決して完全に健康じゃない、不健康であるというものではないんですけれども、未病——健康よりも病気に近づいているリスクが高いと思われるスコアの割合が高いというところになっております。

続きまして、4ページ目になります。こちら、ウの行動変容ステージの分布とな

ります。先ほどから行動変容ステージという言葉を使わせていただいておりますが、こちらは、健康への関心及び行動の段階を5段階で表すという理論でございまして、無関心期、関心期、準備期、実行期、維持期という順番で変化をしていくものになります。無関心期というのは、まだ健康課題に気づいていない状態、あまり関心のない状態で、最終的には、維持期というのが一番最後にありまして、健康課題にも気づいているし、実際に対処もしている。そのまま、実行して維持しているという段階が一番最後に来るような形になっております。

左下のグラフが、WELL BE CHECK を全国で実施した時のデータですが、こちらですと全体で6,851人の回答の中で、無関心期、関心期、準備期、実行期、維持期というふうに分布があります。特に一番多いのは、やはり無関心期でございまして、健康づくりの文脈においては無関心の方がかなり多くいるので、そこにアプローチしていかなければいけないというところがあるかと思うんですけれども、そちらが31%という全国平均になっております。

これに対して、茨城県中央地域ではどうなのかというところが右のグラフになります。こちらも全国平均の分布としてはかなり類似してるような状況ということがわかりまして、地域的な差は特にないと思われまして。こちらは当県中央地域に関しましても、無関心層へのアプローチというものが非常に大事であり、こちらの31.2%の方にも今後アプローチしていきたいと考えております。

なお、各市町村の分布というものも把握はしておりますが、市町村によっては回答者数が少なかったりという現状もございまして、かなりばらつきのある結果となってしまうので、ここでは県中央地域のものを代表して載せさせていただきます。

次に、5ページ目になります。こちらがWELL BE CHECK 内でアンケートも取ったんですけれども、自分自身では何が健康課題だと思っておりますかというようなものですけれども、そちらに回答結果を表に出させていただきますが、全体を見ると、「運動不足」、「ダイエット・体重管理」、「ストレスやメンタル」といったところが回答として多かった状況でございます。この県中央地域ですとか各市町村の結果が、6ページ目まで続いておりますが、概ね運動不足と回答した方が、どの市町村でもかなり多かったという状況です。

(7)の総括ですが、こちらは最初に申し上げたWELL BE CHECK を実施したその目的に対してどうだったかといったところを、簡単にまとめたものでございます。まず、①のLINEの有効性ですが、30歳代から50歳代の方にアプローチしたいというところで、LINEというツールでどこまで回答者を集められるかといったところですが、30歳代から50歳代の働き盛り世代へのアプローチという目的は概ね達成したのかなというところがございます。これくらい手軽なツールであれば、忙しい世代である方にもある程度参加してもらえる見込みがあるという印象です。ただし、スマホを使うと言っても、今回はあくまでも1回限りの健康チェックというものでございまして、ほかにもスマホを使うICTの健康づくりとして、よくアプリを使い自分の歩数とか血圧とかを記録していくというものもあるかとは思いますが、そういった継続的な使用が前提となる健康アプリに関しましては、無関心期が一番多いこの現状で、どこまで有効であるかということまでは判断が難

しいというところがございます。

次に、周知の有効性についてですが、どういった周知をすれば、住民の方々に多く参加いただけるのかというところになります。一番はやはりLINEで行う健康チェックでしたので、LINEで自治体から周知を行って、そこからそのまま入っていただくというのが一番理想かなと思っていたんですが、LINEからの参加というのは、19%とそれほど多くはなく、どちらかというと、協力企業の方々に配っていただいたチラシで職員の方々に参加していただいたり、あとは自治体職員による参加というのが内訳として少し多かったかなというところがございます。各市町村で可能な限りの周知は行ったつもりではあるのですが、多くの一般住民の方々の参加を促すには少し十分ではなかったと考えられまして、参加拡大に向けては今後、予算の問題もありますが、景品やポイントといったインセンティブを用意するなど、周知のほかにも参加を後押しするような検討が今後必要となると考えられます。

③の今後の方針についてです。こちらは圏域における無関心層の具体的な分布等が明確になったところがございますので、特にこの層に向けて、効果的なテーマを定めて、健康意識を高める取組を行っていききたいというところがございます。アンケートの中でも、運動不足のほかにもストレスとかいくつかありましたが、運動不足というのも一つ大きなテーマになるかなと考えております。

一方で、このWELL BE INDUSTRYという会社と、今回2か月間にわたって実証実験というように行いましたが、来年度ももし同じように実施する場合、数百万円という費用を要すると企業の方から言われており、予算的な問題もありまして、来年度も継続して実施することは難しいという状況になっております。そのため、ほかの新たな取組を検討していきたいと考えております。

続きまして、2つ目の社会実験の内容になりまして、7ページ目の足の健康診断というものになります。こちらは昨年度に引き続いての実施になりまして、医師、理学療法士、技師装具士という足のプロフェッショナルの方に来ていただいて、来場者の足の骨格チェックとアドバイスの実施といった、足から始める予防医療の取組というものを行いました。

実施の目的としては足の健康診断が今後も継続していくほどの需要がどれくらいあるのか。また、継続していくとして現実的に実施が可能であるかという検証があります。

連携企業は、株式会社ジャパンヘルスケアになります。こちらは、関東経済産業局から御紹介をいただきまして、そこからつながりを持ってやらせていただいているところになります。また、ジャパンヘルスケアのほうから、さらに水戸市の協同病院に協力のお話が行きまして、実際に足の健康診断の場所に、協同病院の医師2名と理学療法士1名がいらっしやいまして、診断をしていただいたような形になります。

実施期間としては、単発イベント型になりまして、1月19日にアダストリアみとアリーナという体育館で行ったスポーツ・健康フェスティバルというイベントの中の一つのブースとして出させていただいたような形になります。

続きまして8ページになりまして、足の健康診断の参加人数です。こちらは合計で100人、アンケートに回答いただいたのは98人ということでございます。昨年度

も足の健診は行ってるんですけども、昨年度は97人だったのでほぼ同数の参加となりました。

年齢別・性別で見えていきますと、WELL BE CHECKが30歳代から50歳代というところが多かったのに対して、足の健康診断は50歳代以上が大半を占めている形になります。また、こちらのイベントはスポーツ・健康フェスティバルという、若いお子さんから大人の方まで参加いただけるようなイベントの中で行いまして、お子様を連れて親御さん達の世代にも御参加していただければと思っておりまして、同じようなイベントで出したんですが、ただ親子連れの方々への参加はやや少ない印象でございまして、どちらかというところ、健康のコンテンツを受けるために来ましたというような方々がほとんどでございました。

右側が男女別で見た時の参加率ですが、こちらは女性のほうが多いという結果になりました。ちなみにジャパンヘルスケアのほうで行ってる足の健診は、水戸市以外でも行っておりますが、ほかの自治体ですとかほかの病院のイベントなども、大体女性のほうが多いという結果になっております。

(6)の実施結果ですが、健診の評価として、A B C Dというふうに評価をつけておりまして、Aが特に大きな異常はない、Dのほうはやや問題があるというような形になります。こちらは全体を通して、Cという評価が中程度の足のゆがみがありますよというような形で、ケアを推奨しますという層が最も多いということになりました。こちらは、去年も大体似たような分布になっております。このC評価と判断する要因としては、特に外反母趾というものが認められるというものがあまして、下の図のように親指がどんどん小指側に曲がっていくというようなものになりますが、こちらは、手術などなしで勝手に良くなるということがあまりないということで、むしろ徐々に悪化していくというところがあるそうです。症状が進みますと、靴を履いたりするのが辛かったりとか、歩くのが痛くなったりして、緩やかにフレイルに向かっていってしまうというところがありますので、そういったところをせめて現状の維持をしていきたいと思いますというところが重要になっているというものでございます。

9ページになります。こちらの評価を性別で見た場合になります。左が男性、右が女性となっておりますが、こちらは男女差が出たのかなという結果でございまして、男性のほうはCもいるんですけども、Aという特に問題がないという方もかなり多くいたという結果になっております。一方で女性の場合は、Cというやや足のゆがみが認められる方が分布として多く、評価の良いA・Bというものが少し少ないというような形で、性別による差異が見られたような形です。

理由として考えられるのが、女性のほうが関節が柔らかく扁平足や外反母趾になりやすい傾向がある。また、つま先が閉じた靴を履く機会があったり、そういったところもありまして、足の悩みを持ちやすいということが女性の方には多くあると考えられまして、それが参加者率としても、女性の方が多いという結果に結びついているのかと思われまして。

下のウとエに関しましては、簡単なアンケートになりまして、足に興味を持つきっかけになったかというところと、満足度というところになりまして、かなり高い数値をいただいているところでございます。当日はドクターや理学療法士の方に、

直接一対一で見ていただいて、靴を脱いで足の状態を見て、どのような問題があるかとか、あるいはそれを維持するため、よく改善するためにはどういうエクササイズがあるか、そういった御案内を差し上げたところですが、かなり親身にアドバイスをしていただきまして、結果なんかも印刷して手渡しをするといったところも行っておりましたので、そういったところでもかなり満足度が高いという結果になっておりました。ただ、長くて1時間待ちとなってしまったイベントになりました、かなり限界まで行って100人というところと、待ち時間が長くなってしまったというところが少し課題としてはありまして、今後別のパッケージでイベントとして実施する時の課題と考えております。

10 ページ目になりまして、こちらが総括になります。(7)の目的に対しての総括ですが、WELL BE CHECK ほどの周知は今回行えていませんでしたが、常に行列ができるほどの盛況でございまして、足の健診というものも、あまりほかでは行っているものではないという目新しさもありまして、需要が高いものかと考えられます。ただし、先ほど申し上げました通り、長くて1時間待ちとか、そういったところになってしまったところもありましたので、運用については今後工夫していく必要があると考えております。

継続性というところに関しまして、場所があれば足の健診はできるということと、先ほどの WELL BE CHECK よりも予算規模としてはかなりコンパクトにできるということもありまして、継続の可能性としては、比較的高いものになるかなと思います。また、ジャパンヘルスケアさんでは、ほかにもカメラを使ってディスプレイに歩行する姿を映して歩行を計測するものですか、ほかにも様々な足に関する講座もできるということで、ほかにも発展性があるかなというところでもございまして、そういった新しい取組についても今後利用を検討して参りたいと考えております。

最後に、3つ目の社会実験になりまして、こちらがAI 歯科検査というものになります。

実施の内容としましては、パソコンにつながった専用のカメラで口の中を撮影しまして、それをAIによる判定の下で、口腔状態がどれぐらい良い悪いというスコアですとか、アドバイスを出すというものになります。このAIは、九州の歯科大学で持っているレセプトデータを学習しておりまして、撮影した写真と近いデータをビッグデータの中から引用して、さらにその状態に近い方に出したアドバイスと似たアドバイスを、その場で瞬時に出すというものになっております。

こちらも足健診と同様に、目的としましては、需要や継続性について検証していくというものになります。

(3)の連携企業は、歯っぴー株式会社という熊本県の会社になります。こちらも、令和5年度に自治体と企業を結びつけるガバメントピッチというイベントに参加した際に提案をしていただいた企業の一つになっております。当日は、熊本県から職員の方に1人来ていただき、機械も持ってきていただいて行いました。

実施期間としては先ほどの足の健診と同じで、スポーツ・健康フェスティバルのイベントで行った形です。

11 ページになりまして、こちらが参加人数になります。こちらは合計81人に参

加をいただきました。年齢別・性別で見たときに、左側が年齢別、右側が性別なんですけれども、こちらやはり足健診と同様に、50歳代以上の参加が多かったというところになります。右側の性別で見ると、こちらは逆に足健診と逆で、男性のほうが多く女性のほうが少ないといった状況になりました。

(6)のアンケートの結果になるんですけれども、他者勧奨——家族や友人に薦めたいかというところで、9割以上の方々が御満足いただけてほかの方にも薦めたいというような回答をいただいたところになります。また、セルフケアの関心や行動——自宅で歯の改善をしたいかと聞いたアンケートの内容に関しましては、セルフケアにつながると回答いただいた方が9割以上いらっしゃいましたので、今回のA I 歯科検査というものが、歯の最初のスタートというか、きっかけづくりとしては機能していたのかなと考えられます。

次に、12ページ目になりまして、こちらは、医療機関などの歯科受診のきっかけになりましたかという質問でございます。もともと医療機関を受診するつもりはなかったけれども、このA I 歯科検査をきっかけに受診する気になったということが、3割ほどいらっしゃったという形になります。このA I 歯科検査は、処置を行うというものではなく、その場で症状が改善するというものではありませんし、あくまでもセルフケアや歯科医療機関への受診につなげていくというところのきっかけになるなど、そういったところではよく機能していたと思ひまして、一番最初に申し上げた無関心期の方々へのアプローチとしても有効なものかなと考えられます。

(7)の総括に関しましては、こちらも足健診同様、需要が高かったと考えられます。このA I 歯科検査というものがそもそもあまりほかにはないものでございまして、足健診同様目新しさもあったような形でございます。また、アンケートでも、セルフケアや受診のきっかけになったということで、当人の行動変容ステージ——無関心期とか関心期とか、そういったところの変化を促す一つになるのではないかと考えられます。

また、今回のA I 歯科検査、職員の方に来ていただいたんですけれども、慣れてしまえば、パソコンとカメラの機材さえ借りてしまえば、それを企業の方が使うのではなく、例えば我々自治体の職員が扱って、健診の会場とか、何かのイベントの時に一緒にやるとか、そういったところで実施することが可能でございまして、こちらも場所と人を用意できて、さらに機材を借りることができれば、比較的容易に実施が可能なのかなと考えられまして、ほかの各自治体のイベントなどにも拡張性があるものかと思われまして、長くなりましたが、内容に関しましては以上になります。

【会長】 御説明ありがとうございました。3つの社会実験があつて、WELL BE CHECK、足の健康診断、A I 歯科検査ということで、どれからでもよろしいので、委員の皆様方から御意見・御質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

私からひとつよろしいですか。

2ページ目のWELL BE CHECKの広報のほうで、LINEがちょっと少なかったということなんですけど、何か年代別で分析したりというのはやられていますか。全体で、例えば、20代はLINEでの回答が多かったとか、30代はチラシが多いとか、そういったところはどうか。

【執行機関】 そこまではできていないです。

【会 長】 年代によって、有効な働きかけのメディアがちょっと違うのかなという気がしたので、わかりました。ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

【副 会 長】 質問なんですけれども、2つ目の足の健康診断のところなんですけど、参加された方々が60歳以上の方が7割ぐらいなんですけれども、この方たちが参加するきっかけとなった情報源というか、それはどういうことで来られたんでしょうか。

【事 務 局】 ありがとうございます。実際にイベントに参加された方にお声掛けして聞いてみたんですけれども、何を見て来られましたかというふうにお話しましたら、市で出している広報紙、水戸市では「広報みと」というのがあるんですけれども、それを見て来たという方がほとんどでございまして、先ほどの質問に少しつながるかもしれないんですけれども、そちらの層の方には、アナログな手法が届くのかなと考えられます。

【副 会 長】 ありがとうございます。非常に女性にとっては足の問題はやはり50代以降はすごく問題だと思っていて、外反母趾だけではなくて、タコができたり巻き爪があったり、高齢者の方ほど困っていることが多いと思うので、非常に良い取組だったのかなというふうに拝見しておりました。

【会 長】 ほかいかがでしょうか。

私のほうから指名してもいいですか。___委員、AI歯科検査というのは、専門家から見ているかがでしょうか。

【___委員】 はい。私も実際この日、AI歯科検査のブースにちょっと顔を出しまして、担当の歯科メーカーさんとちょっとお話をさせていただきました。あくまでも、いわゆる無関心層の方々を底上げするというひとつのツールとしては、カメラとコンピューターを使った検査というのは、非常によろしいんじゃないかという反面、やはりそれがあくまでも正確なデータではないですよと、カメラの精度はかなり高いですけども、あくまで我々としましては、歯科検査プラス歯科保健指導というのがやっぱり必要になってきますので、ちょっと歯ブラシ指導うんぬんというふうに新聞記事には載ってるんですけど、本来これは、無資格者が指導するというのは、あまり法令上はよろしくないというふうには考えております。

その辺だけはちょっと少しくリアしなきゃいけない部分があると思いますので、これを例えば、AI歯科検査の中に歯科医師や歯科衛生士という人たちが一緒になって参画できれば、またよりよい事業になるのかなというふうに思います。

以上でございます。

【会 長】 はい。ありがとうございます。個人的にも、機器の操作に慣れば職員でも可能というお話があったんですが、やはり参加者としては、それにまた何かアドバイスが欲しくなると思うので、そういったアドバイスができるような仕組みでできるとすごくいいのかなという感じがしました。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。___委員。

【___委員】 実は我々1月18日に、第3回ヘルスマイト展というのをやりました。独自のお祭りなんですけども、このときにいろんなブースを設けたんですね。今回は明治と雪印の協力を得まして、2つの団体が来てくれましたので、野菜の摂取量を測ったりとか、それから体脂肪組織の検査とかいろいろやっていただいたんですね。その中

で、歯も大事だということで、今回2色のガムを30回噛んでもらってということでやってもらって、自分がどれだけ咀嚼力があるのかという検査をしたんですね。次に60回噛みなさいということで、初歩的なことではあるんですけど、そういうかむかむテストをやったんですよ。

今回こういうAIを使ったのは簡単に——簡単ではないですけども、できるのではないかというような、第4回もぜひやってくださいというような意見がもう市民の方から出てるんですね。ですので、来年度もということで取り上げたいなあと思ってるんですけども、今回を通じて、こういう機材を貸してくれる。もちろん、専門家が来てくれればそれに越したことはないので、ぜひ働きかけをお願いできればなと思っております。よろしくお願いいたします。

【___委員】 今お話いただきました健康事業に関する取組に関しまして、やはり歯科としましても、やはりかむかむというのは、ガムを噛んで健康づくりをしましょうというふうな、ことはやっぱり___の中でもやっております。ぜひお声掛けいただければブースとして、参加させていただきたいというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【会 長】 ほかいかがでしょうか。___委員。

【___委員】 今回の社会実験、3つございますけども、やはりLINEを使った健康チェック、それからスポーツ・健康フェスティバルに参画しながらの足の健診とAI歯科検査、あくまで一般企業の全国的な展開されているような企業さんをお招きしているんですけど、やっぱり健康フェスティバルっていうのは、県央地区でもいろいろ各市町村でいろいろな取組をされてると思うんですが、やはり今___委員のほうからお話あったように、例えば水戸市なら水戸市の健康フェスティバルの中に、他の市町村の、例えば健康フェスティバルではこのような取組をしていますよという周知PRのブースがあってもいいのではというふうに、実際私1月19日に来場しまして、そのように感じた次第でございます。

ぜひこの辺に関しましては、行政の皆様も一緒に考えていただきたいというふうに思いますので、せっかくこういう協議会がございますから、やはり市町村単位ではなくて、県央というふうに、もう少し広域になった取組の仕方ということをやったり連携していただければよろしいのではないかと思います。

以上でございます。

【会 長】 今、___委員から、非常に重要な御意見がございましたけれども、事務局の方から何かございますでしょうか。

【執行機関】 はい。確かに昨年度、今年度と、水戸市のスポーツ・健康フェスティバルの中で、このウェルネス推進協議会の中で協議していただいた、ICTを活用した健康づくり事業の実証実験というものを出していたというところにとどまっていたかと思えます。先ほど委員さんから御意見いただいたように、9市町村で連携してPRしていくというのは効果的かなと思えますので、来年度以降から検討していきたいと思えます。

【会 長】 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

お時間もありますので、次の議題に進みたいんですけど、もしそのあとでも何かございましたら、御意見いただければと思います。

それでは、次の議題に進みたいと思います。

議題(2)、令和7年度の社会実験について、事務局から御説明をお願いいたします。

【執行機関】 それでは議題(2)、令和7年度の社会実験につきましては、すみませんが口頭で説明をさせていただきます。

来年度の社会実験としましては、先ほど報告させていただきました、今年度の実証実験の実施結果や今後の方針、また、今後の継続性・発展性も踏まえ検討していきます。今年度同様に、件数としては、単発イベントの中で2件、できれば、もう1件の合わせて3件実施できればと考えているところです。

先ほどの議題(1)の中でもお話ししました通り、今回ガバメントピッチを通してやりました株式会社 WELL BE INDUSTRY との連携の継続は難しいと考えているところがありますので、また新たに調整を進めていこうと思っております。まずは、来週、東京ビッグサイトで開催されます、Care Show Japan 2025 というイベントに参加して参ります。

参考資料としまして、お手元にお配りしております。チラシの抜粋になるんですけども、こちらのイベントは、介護・医療・ヘルスケア分野の展示会となりまして、その中で、セミナープログラムのひとつとして、今回の WELL BE CHECK の取組の事例発表、パネルディスカッションに水戸市として参加をして登壇するとともに、ヘルスケア分野で出展している企業のブースを回りまして、社会実験に向けて、新たな企業とのつながりですとか、情報収集をしてこようと考えております。

また、ガバメントピッチから関わっている関東経済産業局のヘルスケア産業室も継続して協力していただけるとのことですので、今後も社会実験に向けた情報提供など、引き続きコミュニケーションを取って参りたいと思っております。

具体的に実施する内容につきましては、次回の協議会の開催を夏頃に考えておりますので、その中でお示ししまして、協議の上で決定して進めていきたいと思っております。

説明は以上です。

【会長】 ありがとうございます。それではただいまの内容につきまして、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。特にございませんでしょうか。

口頭での御説明だったのでなかなかイメージがつきにくいかもしれないんですけども、来年度の社会実験の検討として、先ほど御報告のあった足の健診であったり、あるいはA I 歯科検査であったり、この辺も含めながら、プラスもう1件ぐらい調整してできればという内容だったかと思えます。

先ほどの WELL BE CHECK のところでも、運動のことですとかあるいは休養のことですとか、あるいはダイエット・食事というところが、やはり一つの鍵になってくるような形になっていますので、そういったところに働きかけるような社会実験ができればと思っております。

いかがでしょうか。よろしいですか。

(意見・質問等なし)

- 【会 長】 それでは本件については、これで終わりたいと思います。
次にその他に入ります。何か、御発言等ございましたらお願いいたします。
先に事務局のほうから、今後の予定等の説明をお願いいたします。
- 【執行機関】 はい。それでは繰り返しになるんですけども、次回の協議会については、夏頃に開催する予定を考えております。開催の約1か月前には開催通知を送らせていただきますので、御承知おきをお願いいたします。
以上です。
- 【会 長】 はい。次回の夏頃の開催を予定し、議題としては、令和7年度の社会実験について御審議いただきたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。この社会実験、ある程度方向性が決まりましたら御連絡いただけるというイメージでよろしいでしょうか。
- 【執行機関】 提案できる段階になりましたらお示ししたいと思っております。
- 【会 長】 ありがとうございます。それでは、本日の内容にかかわらず、もし御不明な点や御意見等ございましたら、今お配りしてるこちらの意見書であったり、あるいはメールでも、事務局のほうに御連絡いただければと思います。
それでは、私の進行はここまでとさせていただきます事務局にお返ししたいと思います。委員の皆様方には、会議の円滑な運営に御協力いただきましてありがとうございます。
- 【執行機関】 ありがとうございます。
長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございます。
以上をもちまして、令和6年度第2回茨城県央地域ウエルネス推進協議会を終了させていただきます。ありがとうございます。

上記に相違ないことを確認する。

氏 名

氏 名